石巻専修大学
●「石巻専修大学」ホームページ● http://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

石巻専修大学
広報係
〒986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7743（直）

2018年4月
創立30年を
迎えます

女子競走部大活躍

陸上　北日本インカレ

1万メートルで上位独占

7月2、3日に札幌市厚別公園陸上競技場で開かれた第38回北日本学生陸上競技対校選手権大会（北日本インカレ）で、女子競走部が大活躍した。

女子1万㍍で川崎美祈さん（人間2・山形県山形城北高）が優勝し、原田詠麻主将（経営2・静岡県静岡北高）が2位、千葉悠里奈さん（人間2・宮城県常盤木学園高）が3位と上位を独占。5000㍍でも2～4位に入るなど圧倒した。

1万㍍を36分1秒58の自己ベストで優勝した川崎さんは、2秒差で続いた原田主将とともに3位でゴールする千葉さんを出迎えた。雨が降りしきる厳しいコンディションをものともせず、レースに集中。3人で表彰台を独占し、喜びを分かち合った。

表彰台に並んだ（左から）原田さん、川崎さん、千葉さん

優勝した川崎さんはインカレ（第85回日本学生陸上競技対校選手権＝9月2～4日、埼玉県）の出場権を獲得。「厳しい状況だったが、自己ベストを更新して優勝することができたので自信がついた。夏場もしっかりトレーニングを積み、レベルアップを目指します」と話し、精神的にもたくましく成長したことを印象付けた。

※そのほかの種目の結果

【5000㍍】漆戸雛（人間2・青森県八戸学院光星高）＝2位、庄司琴美（経営1・宮城県聖和学園高）＝3位、牧野あや（経営2・岩手県北上翔南高）＝4位

【3000㍍障害】西島百香（理工1・静岡県韮山高）＝5位

【1500㍍】髙橋七海（人間2・山形県九里学園高）＝6位、寺牛若菜（経営2・埼玉県飯能高）＝9位

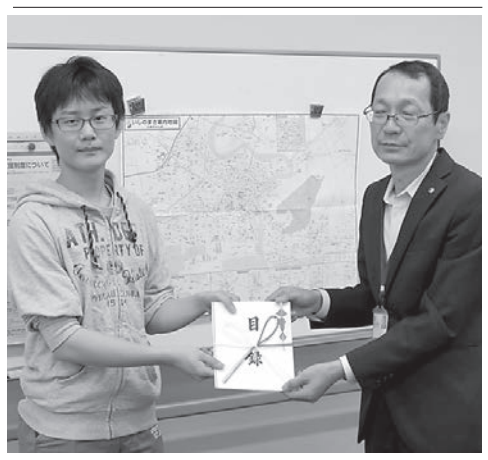
熊本地震 緊急支援

義援金を寄託

石巻専修大学は熊本地震災害の緊急支援として、学内で受け付けた義援金約10万円を6月30日、石巻市福祉部に寄託した。日本赤十字社を通じ熊本県に届けられる。

「東日本大震災の時に寄せられた多くの善意に少しでもお返ししたい」と大学と学生会が連携し、5月9日から31日まで学内に募金箱を設置。学生や教職員に呼び掛けたところ、多くの善意が寄せられた。

代表して石巻市役所を訪問し、福祉部の職員に義援金を手渡した学生会の阿部貴之会長（理工3・青森県八戸西高）は「熊本は今も大変な状況で、不安の中で過ごしている方が大勢いると思う。少しでも皆さんのお役に立てていただければ」と語った。


石巻市役所で福祉部の職員に義援金の目録を手渡す阿部学生会長（左）

多様な自然を観察

理工学部　海・山で実習

1年次生を対象に、豊かな自然の中で生物学の基礎知識を養う理工学部生物科学科と食環境学科の「合同臨海実習」が6月4日、市内の渡波（わたのは）海岸で行われた。

前期の必修科目で、両学科の計71人が参加。太田尚志教授らの指導で前半はグループに分かれ、潮間帯（干潮時には完全に潮が引き満潮時には海中に没する部分）に生息する海洋生物の分布を調査。後半は磯場に生息する貝やカニの種類を調べたり、胴長靴を履いて小魚を網で採取した。最高気温27度と絶好の野外実習日和で、顔や腕を日焼けさせながら熱心に観察していた。

◇　◇

6月18、19日には生物科学科植物コース3年次生の必修学外授業が蔵王連峰で実施された。

学生19人は根本智行、依田清胤、宮嵜厚の各理工学部教授らの引率で、初日は蔵王山南蔵王縦走コースを刈田峠から屏風岳（1825㍍）まで往復し、高山植生と植物相などを観察。2日目は二口渓谷の三方倉山（971㍍）登山道を縦走し、日本を代表する冷温帯林のブナ林の植生と植物相を観察した。

大自然の懐に分け入った1泊2日。自然の雄大さや恵みを堪能し、充実した時間を過ごした。

渡波海岸での合同臨海実習で、海洋生物の生息分布を調べる1年次生

学生13人が一役

参院選期日前投票

「18歳選挙権」が初めて導入された参議院選挙（7月10日投開票）の期日前投票に学生13人が協力し、立会人や案内係を務めた。石巻市選挙管理委員会の依頼を受け、7月1日から3日まで市内の大型商業施設「イオンモール石巻」に設置された期日前投票所で、若い有権者に選挙を身近に感じてもらうため一役買った。

協力したのは学生会のメンバーで3年次生1人、2年次生4人、1年次生8人。19歳で初めて選挙権を得た阿部将さん（人間2・宮城県東松島高）は腕章を付け真剣な表情で立会人席から投票を見守った。「自分も有権者として参加する初めての選挙。これまで選挙や政治に関心を持つ機会が少なかったが、興味が湧いた」と大役を終え、ほっとした様子だった。

石原ゼミ 鈴木研

開発商品を「道の駅」で販売

「たれが肉と合っていてジューシー」「食べたらやみつきになるね」

経営学部石原慎士ゼミと理工学部鈴木英勝研究室の学生が7月2、3日、石巻市の道の駅「上品（じょう ぼん）の郷」で「どぶ漬け唐揚げ」「宮城県産銀ザケのキッシュ」など研究活動で開発した商品の先行販売を行った。

唐揚げは3月の試験販売に続く取り組みで、今回はヘルシーな鶏むね肉を使用。追加が間に合わない人気で、2日間で計40㌔を販売した。甘辛いたれに漬け込んだ「どぶ漬け唐揚げ」は石巻市飯野川地区に伝わる懐かしの味。ゼミ生らは宮城県産銀ザケの消費拡大と飯野川地区の知名度アップを目指し、新たなご当地グルメとして鶏肉と銀ザケの唐揚げの開発を進めてきた。

伊藤大亮統括ゼミ長（経営4・宮城県仙台育英学園高）は「商品開発には消費者の生の声が欠かせません。多くの方にアンケートに協力していただき感謝です」と充実した表情で話す。

これまでの試験販売も好評だったが、学生たちは「どこにもない、まねのできないおいしい商品」を求め、たれはもとより具材の大きさ、包丁の入れ方、揚げ油の種類や温度まで改良を進めてきた。8月13日に開催される飯野川商店街の歩行者天国で「どぶ漬け唐揚げ」をお披露目することが決まり、開発はラストスパートに入った。

地域の食材や食文化を生かした商品はほかにも。全国の大学ブランド食品が集まる「第9回『大学は美味しい!!』フェア」（5月、東京・新宿髙島屋）では「鳥取・境港発カニだしラーメン」「宮城・石巻発シャケだしラーメン」を販売。6月にはイオンモール石巻で銀ザケのキッシュ、八戸産サバのくん製とリンゴを使ったオードブル「大人のサバップル」を試験販売するなど、地域の活性化につながる新商品の開発に取り組んでいる。

どぶ漬け唐揚げを販売する石原ゼミと鈴木研究室の学生たち。香ばしい匂いが客を引き止める＝7月2日、上品の郷

3言語で楽しむ「星の王子さま」

図書館主催朗読会

サン＝テグジュペリの名作『星の王子さま』を原語の仏語、英語、日本語の3言語で楽しむ図書館主催の朗読会が6月23日と30日に開催された。

仏文学が専門の大谷尚文図書館長（人間学部教授）が作中で主要な役割を演じているキツネや惑星、バラ、井戸、砂漠などの語源や意味を紹介し、物語の奥に潜むメッセージを解説。英訳を佐藤ひかるさん（人間3・宮城県石巻好文館高）、日本語訳を齊藤遥香さん（経営4・岩手県水沢商業高）が朗読した。

仏語版、英語版は国際交流や異文化理解をテーマとする「テイラー文庫」に並んでいる。石巻市内の小中学校などで英語を教えていたテイラー・アンダーソンさんが東日本大震災で津波の犠牲になったことを悼み、昨年設置された。

テイラーさんの母校、米国ランドルフ・メーコン大学とは昨年から研修生を派遣する交流事業が始まり、佐藤さんはその1期生。齊藤さんは9月に同大を訪問する予定。

齊藤さんは「主人公の王子さまの気持ちになって読むことを心掛けました。朗読を体験して、テイラー文庫への興味も深まりました。メーコン大学訪問がより一層楽しみになりました」と感想を述べた。

参加者は日本語版『星の王子さま』の朗読に聴き入った